



桜の本陰

豊田市立藤岡南中学校 校長だより

令和四年五月三十一日 体育祭特集号



令和4年度体育祭スローガン

Break!!

～ そして壁の向こうへ ～



あいさつ

校長 松山 貴久

青葉を吹き渡る快い風が吹くころとなりました。保護者、地域の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは、藤岡南中学校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、五月十七日、二十二日に体育祭を行うことができました。本年度の体育祭は競技の部と表現の部に分けて二日間で開催しました。これにより、暑い時期を避けた半日開催であっても、競技数を増やし、生徒会種目などの内容を充実させることができました。また、表現の部は防災フェスタと同時に開催することで、桜の舞に加えて、団アピールを地域に発信することができました。競技の部終了後、「三年間で一番興奮して楽しい時間だった」と感想を語る子どもの姿がありました。

本校の体育祭の特徴は縦割り団にあります。加えて、本年度から全団のリーダーが集まって、調整会議を開き、問題点について議論することで、学校全体を高めよう

としてきたことも新たな特徴となりました。

団アピールの見どころは、各団の表現方法の工夫と団結力あふれる動きですが、私が注目しているのは、当日に至るまでの活動です。今年の三年生は進級するとすぐに役割分担をして計画や創作を始めました。ダンスを覚えるための動画をタブレットで配信し、各自で練習しました。練習用ですが、ユーモアがあふれ、思わず笑顔になる動画でした。また、一・二年生代表も巻き込んで集中練習をした団もありました。そして、全員練習では、ダンスの練習に加えて隊形移動を確認しました。こうして完成を目指しますが、個人としても集団としてもうまくいかないことの連続で悩むこともありましたが、このように、団活動を通して子どもは社会性と主体性を伸長していきます。本紙には、子どもの思いを掲載しています。ぜひ一読いただき子どもの成長を感じていただけると幸いです。

終わりにりましたが、本年度の体育祭にご協力いただきました、各自治会及びコミュニケーション会議の皆様、防災部会の皆様に心より感謝申し上げます。

競技の部を終えて

「勝つのは俺たちだ」

三年一組

別に行事が嫌いなわけでも、運動が苦手でもありません。だから今年も、いつもどおり楽しめる体育祭にしたいと思っていました。

そんな時、学級の仲間から選拔リレーのリーダーを頼まれました。これまで仲間の話に耳を傾けることはあっても、人前で話をしてこなかった自分。そんな僕がまさか視線を集めるような立場になるなんて。ふとよぎるBreakの文字。やるならこれが最後のチャンスだと思い、その役を引き受けました。

競技の部当

日。リレーの結果は厳しいものでした。去年までと明らかに違う強い悔しさが僕に残りました。だからこそ、あえて言いたいです。「団アピで勝つのは俺たちだ。」



「リーダーだけではできなかった」

三年二組

先行体育祭の玉入れでB団は三

十九個で最下位になってしまいました。僕は「本番で一位になる」と決心しました。

それ以降の練習では三分間を計って本番と同じ条件で挑戦し、改善点を話し合ったり、他のクラスのやり方を見習ったりして、一個でも多く入るように工夫を続けました。そんな時、僕は体調を崩して学校を休みました。すると、僕の代わりに仲間が後輩に作戦を伝えて練習をしてくれました。

体育祭当日、

後輩は一位や二位となり、三年生は七十一個の自己ベストで一位になりました。この結果はリーダーだけでなく、チームが丸となり行動した成果だと心に残っています。



「B団優勝」

三年二組

最後の体育祭。心に残った競技は「SASUKE」。ネットくぐりをしたことはなかったけれど勝ちたい気持ちでいっぱいでした。

本番、タスキを

受け取るとスピードに乗ってネットに突入しました。ネットに眼鏡が引っかかり、落ちてしまったのでとても焦りました。それでも、すぐに眼鏡を拾って全力で走りました。担任の先生は「写真を撮れないほど素早い動きだ」と驚いていました。B団の優勝に貢献できたことがうれしかったです。



「Breakしたわたし」

三年三組

最上級生として中学生最後の体育祭は、わたしにとってBreakすることのできた体育祭でした。

今年から始めた大縄で回した手となりましたが、みんなの気持ちが一つにならないことに悩み、仲間に強く当たってしまうこともありまし



た。その中で、クラスのみんなに自分の気持ちを伝えること、また、仲間の気持ちを聞くことの大切さを知りました。そして、自分たちが最終的にどこに向かうべきかといった全員の気持ちを一つにできたと感じています。三年三組はこの話し合いをきっかけに一位を獲ることができました。

今後の学校生活でもクラス全員で協力し合いながら、全力で取り組んでいきたいです。

「後悔のない体育祭」

二年一組

競技長になって不安なことがたくさんありました。だからと言って弱気にならず、

どれだけその不安を減らせるかが大切だと思つて取り組みました。一番心配だった競技は長縄でした。一回目の練習では二回しか跳べなかつたからです。そこで、話し合つて跳ぶ方法を工夫したり、回し方



を考えたりました。その結果、二十三回跳べるようになりました。これは、強い気持ちと工夫で達成できたことです。当日は十二回しか跳べませんでした。成長を感じられ、みんなで協力して全力で取り組みましたので、全く後悔のない体育祭になりました。二年一組のみんな、ありがとう。

「感動」

二年二組

「いち、あーあ。」最初は、全く跳ぶことができず、この声がみんなから漏れていました。わたしはこの状況に焦りを感じていました。どうしたらたくさん跳ぶことができるのかをクラスみんなで話し合いました。練習では問題点を改善できるように、ひたすら跳びました。やっと出ることができた最高記録はすぐに先輩に抜かれてしまいました。先輩の三十五回という記



録は大きな壁になりました。悔しかったです。

そして体育祭当日。最高記録は出せなかったけれど、全校で一位の記録でした。この体育祭で何よりもうれしかったことは、先輩を抜かせたことでも、一位になったことでもありません。みんなと一緒に成長できたことです。

「みんなで創り上げた体育祭」

二年三組

僕は、体育祭競技の部を通してクラスが成長したと思います。なぜなら、最初は全員がバラバラに考えていた体育祭が、最後には一つになって協力できるようになっていたからです。



なぜ、協力できるようになったのか考えてみました。それは、みんなで同じ課題に向かって努力したからだだと思います。初めは得意・苦手など個人のこ

り、それが達成できるように練習をしました。そこからは、楽しくなっていたように感じます。これからクラスが成長したところをさらに伸ばしていき、二年三組の自慢できる場所にしていきたいと思います。

「笑顔の体育祭」

二年四組

今年の体育祭の目標は、みんなが笑顔で一位を勝ち獲ることでした。そのために、準備の段階から何度も話し合い、心を一つにしました。その結果、ムカデ競争や玉入れでは一位を獲得することができました。みんなの応援や努力の成果だと思っています。



大網は初めてのころ、回数が伸びませんでした。そこで、声出しをすることによって、タイミングを取りやすくする工夫をしました。するとだんだんと回数が伸びるようになりました。本番は、みんなの頑張りによっ

て二位になることができてよかったです。笑顔あふれる体育祭でした。

「二つの壁」

一年一組

僕は、この体育祭を通して二つの壁を乗り越えたと思います。一つ目は、二年生・三年生との壁です。入学してから、先輩と顔を合わせ少し緊張していましたが、一緒に体育祭の準備や応援をしている内に先輩との距離が少しずつ縮まってきました。



二つ目は、全学校の時は、声を出しての応援ができず拍手のみだったので、初めは恥ずかしい気持ちでしたけれども、先輩の必死さがどんなに伝わってきたかで応援できました。

C団が目標だった三冠がとれなかったことは、とても悔しかったですが、この経験を来年に活かしていきたいです。

「結果以外にも大切なことがある」

一年二組

皆さんは今回の体育祭に満足することができましたか。僕は満足した点とそうでない点があります。満足した点は、他学年とも関りをもち、仲を深めることができたということです。三年生が僕たちを引っ張ってくれる姿は、とてもかっこいいと思いました。

残念な点は、長縄での結果です。

練習では二十九回跳べたこともあったのに本番では九回しか跳べませんでした。クラス一丸となって練習を重ねてきましたが、本番の三分は短く、あつと言つ間に終わってしまった。



しかし、結果はどうであれ、みんなで声を出し合い、クラスの仲が深まったことには、満足しています。

「長縄」

一年三組

その日は、初の長縄練習でし

た。思ったよりも難しく、一回も跳ぶことができませんでした。それから僕たちは、体育の空いている時間に練習するようになりました。

そんなある日、僕たちは本番に向けての作戦会議をしました。並び方や跳び方、縄の回し方の工夫を話し合いました。すると、七回跳べるようになりました。でも、次の日、二組が二十九回も跳びました。僕は、「正直やばい」と思いました。

そして、当日、

あきらめずに頑張つて跳んだ結果、十四回で一位になりました。最高記録の二倍跳べたことと、一位になったことで、とてもうれしくなりました。



僕は、この経験から分かったことがあります。あきらめずに頑張つていけば、努力は無駄にならないということです。この経験を活かしてこれからも頑張ります。

表現の部を終えて

A 団テーマ「ROCK」



「色あせないもの」

三年一組

最優秀賞。これまでの二年間も嬉しかったです。でもそこにどんな価値があるのか考えたことはありませんでした。先輩や先生の指示に従つて、与えてもらった最優秀賞が嫌で、その意味を探すための一カ月でした。

辛い。アイデアが浮かばないことへの焦り。ただ時間だけが過ぎていくことへの不安。他団の動きがとにかく気になりました。でもそれ以上に充実した生活がそこに

はありました。毎日行つた朝のリモート打合せ。練習用動画の撮影と編集。リフレクションシートに書くコメント。どれもだれもやってこなかった新しい取り組みで、わたしたちの団アピがそこにありました。

最優秀賞の栄光は、いずれ色あせていくと思います。しかし、色あせることのない自信をわたしたちは身に付けることができました。

「楽しむことの大切さ」

二年三組

わたしは、体育祭表現の部を終えて二つのことを学びました。

一つ目は、協力することの大切さです。放課のダンス練習では、友達同士で分からないところを教え合ったり、振りの確認をしたりする姿がよく見られました。一人一人が同じ目標に向かって協力できたからこそ、優勝をつかみとることができたのだと思います。

二つ目は、「楽しむ」ことの大切さです。わたしはダンスが好きですが、苦手な人もいたのではないかと思います。それでも、みんなで明るく笑顔で練習に取り組んでいました。

これから、難しいことや大変なこともあると思いますが、仲間と協力し、楽しむことを忘れずに取り組んでいきたいと思っています。

「団アピ実行委員になって」

二年四組

最初、団アピ実行委員になって、何をやっていいのかと不安でした。でも、A団の先輩たちが優しく接してくれて、団アピを頑張ろうという気持ちが強まりました。

体育祭当日までに、ダンスの振り付けや隊形移動を完璧にできるようにになったと思います。そして、表現の部では団全体が一つになって最高の演技を創り上げることができました。

わたしたちは、みんなの姿を見て、実行委員をやってよかったと思うことができました。来年は、わたしたちが最高学年となって、最高の体育祭を創り上げたいです。

「ありがとうROCKなA団」

一年二組

僕がA団の団アピールで心に残ったことは、一年生の成長と三年生への感謝です。

一年生は、中学校に入学後、初めて先輩方と行う行事が体育祭でした。団アピールの初練習の時、一年生のみんながとても消極的で一年実行委員として、とても不安になりました。でも、先輩が「大丈夫だよ」と優しく教えてくれました。そのおかげで、一年生は恥ずかしがらず、自信をもつてどんどん変化していきました。そして、二冠へと引つ張ってくれました。二・三年生のおかげで達成できたので、とても感謝しています。僕たちが、三年生になった時に、同じことができるように、学年全体で頑張りたいです。



B団テーマ「Bridge」

「団長になって」

三年二組

私はB団の団長になりました。

初めて約百人の前に立つて指示を出す大変さを実感しました。でもそれよりも大変だったのは、ゼロから何かを創り上げることでした。

一・二年生の時は、先輩に教えてもらって、練習して、覚えてと普通にやっていたことは、先輩がたくさん考え、毎回の練習内容も何をどうするかを計画していたのだと気づきました。

結果は、最優秀賞に届きませんでした。でもわたしたちB団の目標は達成できました。だから、B団の団アピは大成だと自信をもつて言いできます。

「先輩からの架け橋」

二年二組

わたしたちB団は、先輩と後輩をつなぐbridgeをテーマにしています。当日まで振り付けをクラスみんなに伝えたり、盛り上げていくために声かけをしたりして準備してきました。

最初はバラバラだったみんなが、本番では100%のパフォーマンスができました。結果は最優秀賞に

は届かずとても悔しかったです。そして来年、わたしたちが三年生になったときに、見ている人をあっと言わせるような団アピールを創りたいと強く思うようになりました。この二週間は短かったけれど、みんなで一生懸命に取り組み、団の絆が深まりました。このことを今後の活動に活かしていきたいです。

「初めての体育祭」

一年三組

わたしたち一年生は、入学して初めての行事が体育祭でした。

練習では最初、何をすればいいかわかりませんでした。けれども、先輩が動画を送ってくれたので、とてもスムーズにできました。難しい動きは、三年生が分かりやすく教えてくれました。そのおかげで、練習をするにつれて上達することができました。そして、表現の部当日は、無事に全力で踊り切ることができました。

団の中心となって、みんなを引っばっていく三年生の姿はかっこ良かったです。わたしも三年生のようにかっこいいと思われる人になりたいと思えた体育祭でした。

C団テーマ「破伝紅」



「伝説の団、伝説の団長に」

三年三組

「入学して初めての女団長になります。」団テーマ「破伝紅」のもと、伝説になると決めて臨んだ団活動。そこには過酷な日々が待っていました。自分の思い通りにいかずに強く当たってしまった日々。不安と焦りから涙を流した日々。破天荒な日々が続き体育祭当日を迎えました。先頭に立っていたわたしには、みんなの表情は見えなかったものの、明らかに練習とは違う熱量を感じました。いよいよクライマックス。書道の作品を持ち上げた時の歓声は表現の部の一番の

盛り上がりでした。達成感でいっぱいでした。記録には残らなかったけれども、記憶には十分すぎるほど残った令和四年度の体育祭。私が団長として仕事を全うできたのは、間違いなく団全員のおかげでした。C団のメンバーがみんなよかった。言葉では表しきれないくらいありがとう。

「伝えたいこと」

二年一組

わたしが二年一組のみんなに踊りを教えていく中で嬉しかったことがあります。それは、自分から進んで「踊りを教えて」と言ってくれる仲間がたくさんいたことです。それに、朝早くから学校に来て踊りの練習をしたり、ポンポンを作ってくれたりする子が多いことに感動しました。

こうして迎えた本番、正直言うとC団が一番良かったと思っています。それは大きな声を出していたし、踊りも完璧だったからです。だから、クラスのみんなには感謝があります。わたしは実行委員としてまだまだだったけれども、みんなが付いて来てくれたからここまでできたのだと思っています。

ます。本当にありがとう。

「涙」

一年一組

わたしは行事で毎回泣いています。体育祭表現の部でもそうです。でも以前の行事と比べて泣いた理由が違うと思いました。以前の行事は悲しいという理由で泣いていました。小学校の運動会は負けて悲しくて泣きました。でも今回は悲しいのではなく、団でリードオフマン賞や最優秀賞がとれなくて悔しくて泣いた悔し涙とトップオブクラス賞がとれて嬉しくて泣いた嬉し涙が混じったような感じでした。この涙は努力して練習したからだと思います。あと二年体育祭があるので、次は三つの賞をとって嬉し涙を流したいです。

体育祭に向かう生徒の足跡

- 3月 16日 令和四年度前期生徒会選挙
- 18日 スローガン検討開始(生徒会)
- 4月 8日 体育祭テーマ発表(生徒会)
- 11日 三年リーダー決定(3年)

- 15日 調整会議(生徒会・団)
- 18日 団テーマ・団色決定
- 19日 団アピール創作開始
- 20日 一・二年リーダー決定(各学級)
- 22日 調整会議(生徒会・団)
- 25日 競技ルール確定
- 26日 旗づくり開始(各学級)
- 28日 選手・スタッフ決め(各学級)
- 5月 2日 結団式(生徒会・団)
- 6日 調整会議(生徒会・団)
- 9日 練習用ビデオ配付開始(団)
- 10日 ※GW中 準備・個人練習
- 11日 全校練習・係打合せ
- 12日 桜の舞自主練習開始
- 13日 調整会議(生徒会)
- 16日 競技練習
- 17日 桜の舞朝練習開始
- 18日 リモート放送開始(生徒会)
- 19日 競技練習(学年)
- 20日 調整会議(生徒会・団)
- 21日 競技練習(学年)
- 22日 調整会議(生徒会・団)
- 23日 調整会議(生徒会・団)
- 24日 調整会議(生徒会・団)
- 25日 調整会議(生徒会・団)
- 26日 調整会議(生徒会・団)
- 27日 調整会議(生徒会・団)
- 28日 調整会議(生徒会・団)
- 29日 調整会議(生徒会・団)
- 30日 調整会議(生徒会・団)
- 31日 調整会議(生徒会・団)

